

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月14日(木) 19:26~19:36 於)いわき市)

1. 発言要旨

こんばんは。今日は栃木県の下野市と、そして、午後は福島県の三春町、小野町、そして、ここいわき市を訪れてまいりました。

いわゆる「よろず相談所」というのが全国に26か所ございます。下野市では、そのうちの一つの団体等支援をしている方々から意見を聞いてきたところです。

また、三春町では、葛尾村が小学校、中学校をつくって、そのこの授業を見させていただきました。

中学生の英語の授業だったんですけど、我々が勉強した時とは全く違って、発音、やっぱり語学ですから聞く、話すことが重要で、発音をきちんと勉強していたというところに、今までの教育とは違うんだなというところを見せていただきました。

そして、小学校2年生、授業が終わったんですけど、放課後教育、放課後学校という形で、いわゆる先生方のOBの方々、幼稚園の先生の資格を持っている方々がバスが来るまで、18時頃まできちんと預かって、オセロゲームをしたり、いろんな遊びを通して子供たちを預かっている姿、ここを視察させていただきました。

来年4月に葛尾村の小学校、中学校が開校するわけですけど、そこに向けて今きちんと教育、未来を担う子供たちの教育がどうあるべきかというところを模索している姿を見てきたわけです。

次に、小野町の小野公園に行ってみました。ここは子ども元気交付金を使って屋内の運動施設等々、そして、屋外ではオール芝生の遊具、特に幼児の皆様方、いわゆる裸足で芝生に触れて、ピクニック感覚で集まれる、そういう広場が整備されておりました。

本当に子育てのお母様方にとっては大事な施設であって、小野町も6年半前、広野の方々を受け入れてくれた体育館があるんですけど、その脇が小野公園という形で、すばらしく整備をされた姿に、あの6年前の姿を思い出したところです。

そして、ここ、いわきPITでございます。ここは復興庁が主催したインターンシップ事業、それも企業に勤めて、企業で1か月学んで、いろんな体験をするという事業でございます。

いわき観光ビューローにインターンシップに来た方は、脱ハワイ、ハワイアンセンター、今はスバリゾートハワイアンズですけど、いわゆるフラおじさんも引退させて、いわきの観光を脱ハワイにしようという、私たちにとっては発想もしない、びっくりのプレゼンをして頂きました。

いわきはフラガールを中心に、フラガール甲子園もここ、いわきで主催して、いわゆるハワイを全面的に売り出しているわけですが、それに真っ向挑戦するようなプレゼン。その裏にはハワイだけではなくて、もっとすばらしいものがある、いわきにはたくさんある、内郷の白水阿弥陀堂とか、石炭産業の発祥の地のみろく沢とか、もっともっと売り出すものがたくさんあるんだということを私たちがいわき市民に気付かせるために、脱ハワイというインパクトのあるプレゼンをしたのかな、こんな思いです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今のいわきPITの「浜魂(ハマコン)」について伺いたいんですけども、復興大臣として今回のプレゼンを聞いて、何か思ったこととか、今後に生かしたいこととか。

(答) 学生さんは全身全霊取り組んでこの1か月、ある会社は夜中の毎日12時過ぎまで企画を練って、そして、そのプログラムをつくって、一つの企画を実施したということで、会社の方は、うちはブラック企業じゃありません。残業しろと言った覚えはありませんというくらい、学生さん自身が自発的に全力投球でそのミッション、課題に対して自分なりの解答を、考えるだけではなくて汗を流しながらつくっていったという、そういう姿が見て取れました。

これは全てのインターンシップの学生にとって、そういう姿が見られたということで、また、受入れ側の企業にとっても、ここまでいわきの企業の、自分の会社に対して、真剣にどうすればお客さんが増えるかとか、そこまで考えてくれているのかというところで、それが他の社員の方々にも、普通なら楽しんで仕事をするというのが常なんですけど、仕事を楽しんでいきたいという、社員の心も変わったというような社長さんのお話も伺うことができて、今年の春休みもまた100名やります。今年は200名に増やしたんですけど、来年もそれ以上のインターンシップ制度をやっていきたい、このように考えています。

(問) 2点お伺いしたいんですけども、まず、今回の視察先、栃木県、内陸部があったと思うんですけども、その辺で感じられた点というのが一つ教えていただきたいのと、あと、先ほどの関連なんですけども、今回こういうインターンシップをやられたということで、今後大臣としてはどういうふうに発展していったほしいみたいな、もし考えがあったら教えてください。

(答) 全国によろず相談所が26か所ございます。栃木県、この間は山形県、いわゆる被災地でないところにもお邪魔しています。そ

これはなぜかという、被災をされた方々が避難しているんです。その避難をしている方々への支援をしているということで、私にとっては支援を求めている人がいれば、最後の一人まで支援を続けていくという、そういう決意で復興行政やっておりますので、そういう支援者の方々の意見をよく聞いて、これからの復興行政に活用していきたいという思いで、そういう意味の内陸を回っているところです。

また、インターンシップ、実は意見交換は2回目なんです。ここと大船渡で、本当にどちらもウイン・ウインなんですね。学生にとっても勉強になった、素晴らしい体験ができた、全力投球で課題解決をした。そして、受け入れた企業も、本当に今までやっていたことが目から鱗という形で、意識改革ですね。今までの継続をしていたものをきちんと意識改革を学生、いわゆるよそから来た目で見えてくれるわけですので、意識改革ができたという、ウイン・ウインの関係がつくられているのがこの制度なのかなということで、来年も人数を増やしてやりたいと、このように考えております。

(以 上)